

一般社団法人粉体工学会第6回功績賞授賞理由書

受賞者：辻 裕

功績賞推薦委員会

授賞理由

辻裕氏は、1970年に大阪大学工学部産業機械工学科の助手に着任して以来、37年間にわたり熱心な研究・教育活動を続けてきた。その間、乱流や流れの不安定性の研究に始まり、その後、混相流へと研究分野を大きく転換し、固体粒子による乱流変調のレーザー計測で世界的に活躍した。さらに、混相流の数値解析の分野において、個々の粒子を追跡するLagrange型シミュレーションのパイオニアとして、その名を世界に轟かせた。これらの研究成果は、国内外の権威ある学術誌に163編の原著論文として発表されている。特に、離散要素法（DEM）と数値流体力学（CFD）を組み合わせたDEM-CFD連成解析による流動層数値シミュレーションに関する論文は、その論文一報だけで被引用数が2,400件を超えるという驚異的な記録を打ち立てている。このような成果は高く評価され、粉体工学会上滝論文賞、日本粉体工業技術協会協会賞（技術賞）、ホソカワ粉体工学振興財団KONA賞、日本機械学会論文賞、流体工学部門フロンティア賞、流体工学部門貢献賞、機器研究会流体科学研究賞など数々の賞を受賞し、世界最大級の化学工学会であるアメリカ化学工学会（AIChE）Thomas Baron Awardを受賞している。

粉体工学会には1979年に入会し、編集委員、常任委員、計算機利用技術委員および委員長、国際交流委員会副委員長、理事、監事などを歴任され、2014年から名誉会員となった。また、日本機械学会副会長や日本混相流学会会長、日本粉体工業技術協会国際交流委員会委員長、ホソカワ粉体工学振興財団の常務理事など、粉体工学と関わりのある学協会等においてさまざまな役職を歴任し、粉体工学の発展に大きく貢献してきた。さらに、粉体工学という専門分野で活躍する一方で、日本卓球協会スポーツ医・科学委員会委員長、さらには大阪卓球協会副会長という要職を歴任し、学術とスポーツの両分野において卓越した貢献を果たした。

以上のように、辻裕氏は、粉体工学会の学会活動、学会誌、集会行事などを通じて粉体工学の発展に顕著な貢献が認められ、粉体工学会功績賞受賞者として相応しく、ここに推薦する。